

ミスジナガハグサ *Poa subcaerulea* (イネ科イチゴツナギ属) の謎2 —ミスジナガハグサとナガハグサの混乱—

西野雅満 (植物リサーチクラブ・ひとはく地域研究員)

はじめに

「ナガハグサ」(参考図※1) とよく似た種に「ミスジナガハグサ」がある。‘この種はしばしば「ナガハグサ」と混同されて標本庫に入れられている’ と森茂弥氏は植物誌の中で報告している。

そこで私は、

疑問1. ナガハグサとミスジナガハグサを分類するのは可能なのか

疑問2. 混同があるとすれば、どういう原因からその様な混乱が起きているのか

という2つの疑問をもち、両種を観察しそれぞれの疑問を考察した。

材料と方法

「人と自然の博物館」所蔵のナガハグサの標本と、兵庫・大阪・京都・岡山大で採取したナガハグサまたはミスジナガハグサと思われる個体とを用いて、「葉舌」と「第1苞頰の脈数」を観察した(参考図※2)。葉舌と第1苞頰の脈数は、両種の主要な区別点である(参考図※3)。

結果

- 観察 I ① 葉舌の形態の違いと毛の密度の多少を観察した。
② それを図1に表した。縦軸は毛の密度、横軸を葉舌の形態とした。

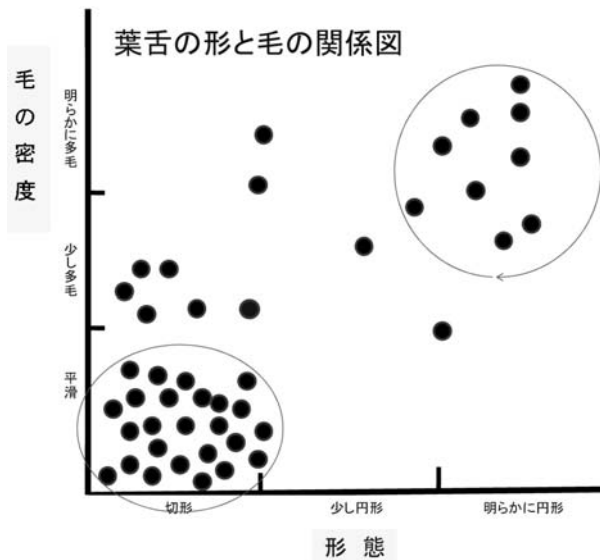


図1

- 結果 I 右上と左下におおむね分かれ、上のグループがミスジナガハグサ、下のグループがナガハグサと分類できた。ところがここには中間的な個体も多々あった。

- 観察Ⅱ
- ① 観察Ⅰと同じ個体を使って、1枝全部の第1苞穎の脈数を顕微鏡で調べた。
 - ② 第1苞穎に1脈2脈3脈が観察できた。
 - ③ 上記の観察結果を表1に示した。

表1

第1苞穎の脈数

個体番号	1脈	2脈	3脈	個体番号	1脈	2脈	3脈
1	14	7	0	16	0	4	3
2	12	0	0	17	0	0	4
3	9	5	0	18	1	5	5
4	8	7	0	19	0	1	6
5	8	3	1	20	0	1	6
6	7	3	0	21	0	0	9
7	7	3	0	22	0	4	9
8	7	3	2	23	0	0	12
9	6	1	2	24	0	1	12
10	4	4	0				
11	4	0	1				
12	3	4	2				
13	3	3	2				
14	2	2	1				
15	2	4	0				

- 結果Ⅱ
- ① 3脈が多いグループと、1脈が多いグループとにほぼ脈数でも分類できた。前者はミスジナガハグサに、後者はナガハグサに対応すると思われる。
 - ② 個体番号12から15のように中間的な個体も多いので、なるべく多くの小穂で脈数の傾向をつかむ必要がある。1枝で判断できなければ、2枝目も観察すれば、ほぼ脈数の傾向がわかる。

以上の2つの結果をふまえて、もとの「葉舌と毛の関係図」の中間的な個体の同定をして図2に示した。図1での中間的な個体は、脈数の傾向をみて、それぞれをミスジナガハグサとナガハグサに同定した。

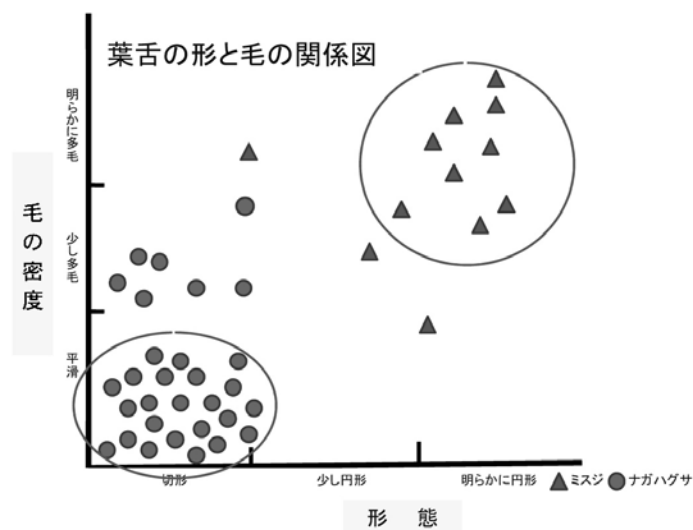
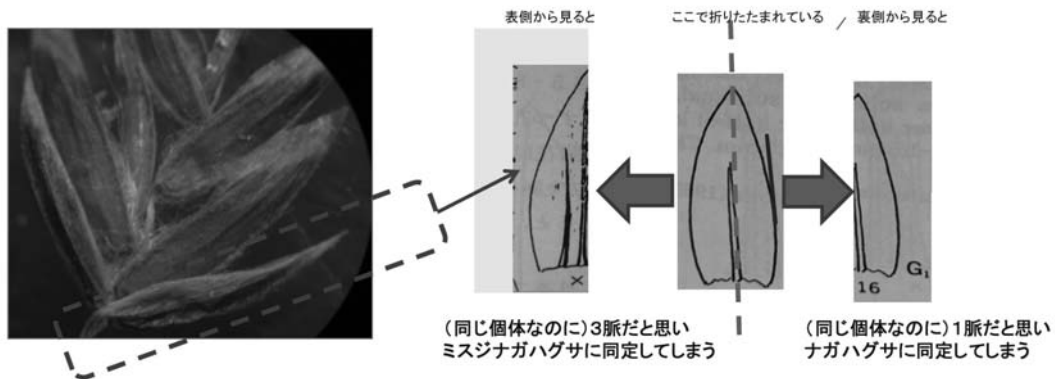


図2

以上の観察で、両種の分類は可能なことがわかった。

興味深い発見

第1苞穎の脈数を観察する際に、同じ個体でも片面からみると3脈に見え、反対の面から見ると1脈に見える、つまり2脈の場合があった。ということは、第1苞穎の脈数を基準にした同定の過程で、見方によっては同じ個体がナガハグサに同定されたりミスジナガハグサに同定されたりする可能性がある。両種を同定する場合は、必ず第1苞穎の両面を観察する必要があると思われる。従来の図鑑には2脈は記載されていない(参考図※3)。2脈の存在に気付かなかった可能性もあり、これが混乱の原因のひとつとも考えられる。



まとめ

疑問1. 両種の分類は可能なのか。

考察. 分類は可能である。ただし従来の図鑑の分類では混乱が起こる可能性があるので次の注意が必要である。

- ほぼ葉舌で同定できるが、葉舌は中間的な個体も多々あるので、第1苞穎の脈数の傾向も加味しながら、総合的な同定が必要である。
- 第1苞穎の脈数は必ず両面を調べる必要がある。
- 第1苞穎の脈数は1枝全部の小穂を見るなど、多くのデータをもとに、脈数の傾向を見る必要がある。

疑問2. 混同があるとすれば、どういう原因からか。

考察. 混同の原因と考えられる要因として次のことが考えられる。

- ① 図鑑に2脈が記載されていないのと葉舌の中間的な形質に対する記載が欠けている(参考図※2参照)。
- ② イネ科の同定はむずかしいとされているので、細かいところまで観察しないで同定されている可能性がある。
- ③ ミスジナガハグサの存在自体が知られていないので、観察する人が少ない。

今後の課題

今後の課題としては、中間的な個体の形態的形質が遺伝的に固定化しているかを栽培して確かめたいと思っている。

謝辞

人と自然の博物館の高橋先生、高野先生、布施先生にご助言を頂いた事を感謝いたします。

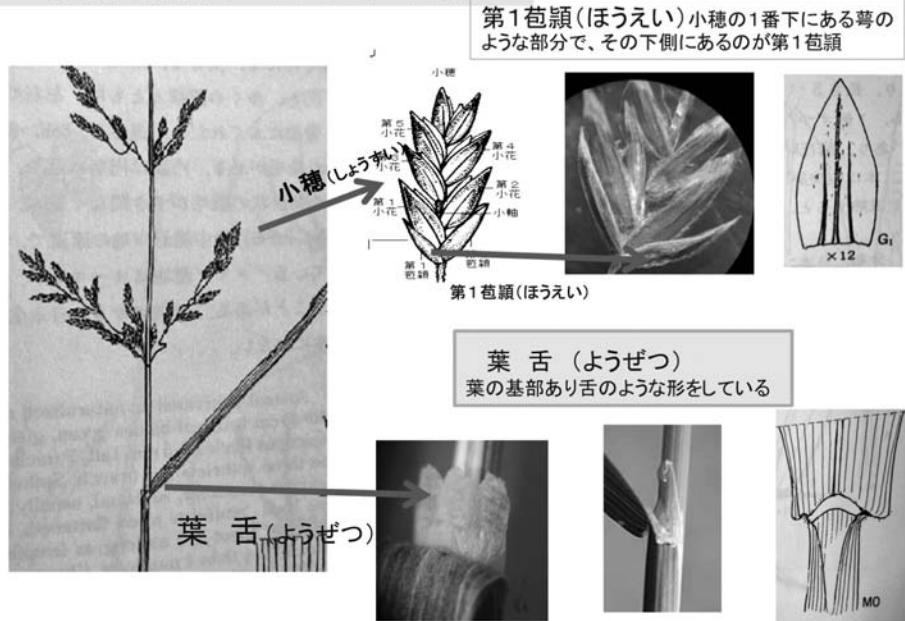
<参考図>

※ 1

ナガハグサ (*Poa pratensis*) は明治の初期に牧草として輸入された帰化植物。
牧草学での名はケンタッキー ブルー グラス。

※ 2

この発表で観察した(イネ科の)部位

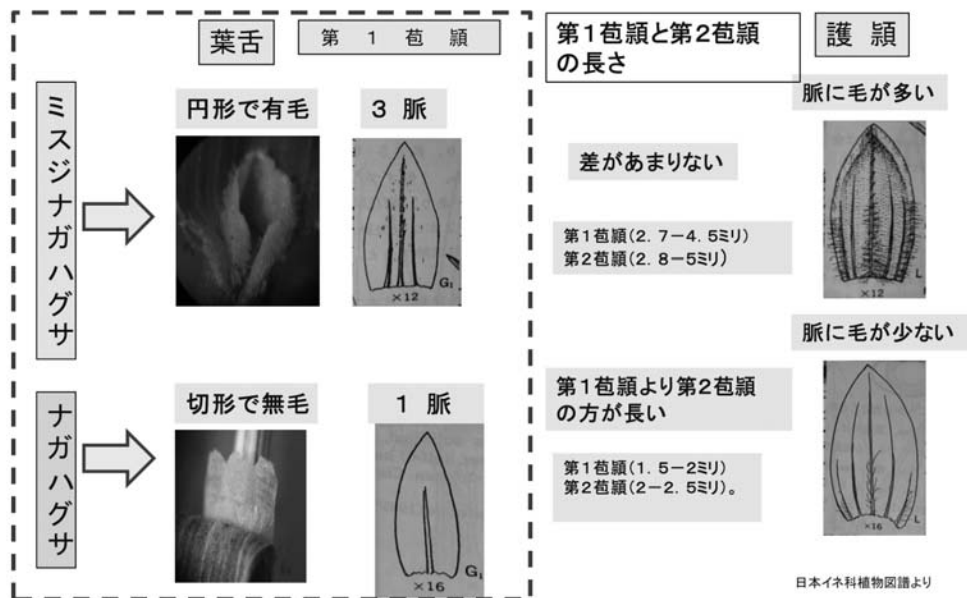


日本イネ科植物図譜より

※ 3

図鑑による

従来から用いられていた両種の相違点



日本イネ科植物図譜より